

尾川

津島祭記

全





序

蓋聞振古有喜者必名物而有公有天
 有私有小公而且大則名年以為御世
 之號私而將小則名亭号人名物流之
 遞代以示不遺也故實既直倭漢尚矣
 僕苟省暮數多年與自國侘邦人接問
 應對之事實與類及吾奉仕神故者終
 為三弓名謂諸客叩鐘錄復号泰平國

A 386

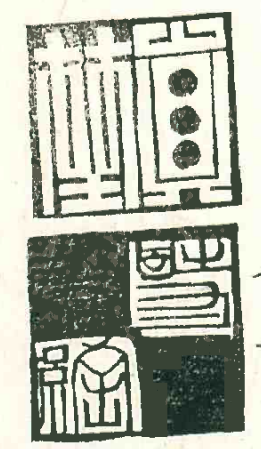
23

恩錄就中有_二年中行事_一之顛末近日因_レ
于季夏大祭頻有_レ感有_レ喜繫_レ技_レ彼_レ一條_レ
加_レ詳考以名_レ津嶋祭記爾或_レ曰吾子_レ所_レ
謂_レ感也喜也_レ行_レ聞_レ之_レ曰否維唯_レ已言是_レ
以不_レ語或_レ曰堅哉言_レ孰與_レ人曰方寸之_レ
喜色尤易察矧_レ非惜分外憚_レ之爾人唯_レ
退_レ罔冠_レ編_レ端_レ云

昔維龍在卯之季夏操毫於正

德之休運

松陰亭主人誌



尾州津嶋天王系記

真野時繩撰

○尾張國海部郡^{アミバ}船門^{リカド}高座^{アミ}を根^ア吉津嶋^ア波^ア故^アの^ア名^アは
 藤^{フジ}浪^{ナミ}里^リかりし^シぐ^ク人^{ヒト}曾^{ソノ}身^ミ七^{ナナ}代^{ダイ}孝^{コウ}靈^{レイ}天^{テン}皇^{ミコ}曰^{イハ}十^{ジュウ}又^{マタ}和^ワ兼^{ケン}統^{トウ}
 素^ソ蓋^{ガイ}鷹^{トウ}考^{コウ}此^{コノ}和^ワ能^ネ大^{ダイ}神^{シン}韓^{カン}狎^ヤ乃^ノ嶋^{シマ}より^{ヨリ}敏^{ミン}朝^{チウ}坐^サ
 先^{マキ}對^{タイ}る^ル例^{レイ}よ^ヨ進^{シン}進^{シン}あり^{アリ}い^イは^ハれ^レあり^{アリ}て^テ才^{サイ}三^{サン}十^{ジュウ}代^{ダイ}欽^{キン}
 明^{メイ}天^{テン}皇^{ミコ}元^{ゲン}年^{ネン}よ^ヨは^ハ神^{シン}嶋^{シマ}よ^ヨ來^キ格^{カク}以^{ヨリ}來^キ故^コの^ノ里^リ名^ナを^ヲ改^カて
 津^ツ嶋^{シマ}波^ハと^トい^イふ^フり^リ藤^{フジ}浪^{ナミ}里^リと^トい^イふ^フる^ルを^ヲ此^{コノ}神^{シン}嶋^{シマ}初^{ハジメ}
 て^テ成^{ナリ}す^ル乃^ノ由^ユ緒^{ジュ}よ^ヨら^ラも^モ呼^{ヨビ}初^{ハジメ}あり^{アリ}い^イは^ハれ^レあり^{アリ}て^テ才^{サイ}三^{サン}十^{ジュウ}代^{ダイ}を^ヲ
 為^{ナシ}社^{シャ}神^{シン}秘^ヒ所^{ショ}と^トい^イふ^フなり^{ナリ}と^トい^イふ^フ神^{シン}韓^{カン}狎^ヤより^{ヨリ}敏^{ミン}朝^{チウ}

尾州天王系記

乃事ハ既ニ神代ノ事トナレドモ和能ハ彼等又
最坐一色法坐如論トモ之と云レドモ其意ハ
神代ニ敏多いてお雲に坐一曰御岬ノ神ト云ハ
和能ハ是如故又敏多くと云レドモ其意ハ
造初多いて馬津尾素乃窟神トナリて神
乃の懸ト云レドモ其意ハ我尊神西海ニあり
乃事所成經て故又來修坐ト事ト云レドモ
いられありけ等ノ條ト云官身一ノ社秘され
と不漏カ化神ト云てけ神徳を造ト云ありト事
色一懸光ト云ハ天照若神天浮橋ト云り御降ト云

して小海中と畫探つとあり時神前一人葦乃
系又新一法いてこま君と云のうろ名あり故
子津尾素乃窟を栖と云ありト由し仰り所禮
天浮橋ハ天玉橋と云り小海中トハ天玉川ありて
神乃如懸己あり湖氷氷ト云ていふる懸を縁
記如例蓋蓋肉傳山玉神傳をどい類とれど
懸て習合乃章法ト云ありすけ等如相更
倭文小本法ト云事有て文章家又不謂春集
胎換骨ト云似て今一ト云風波あり事ト云不與水
刻姑措怒南又ト云ト云其意光ト云能あり傳

因記もあらずして有て大義條教あり然れども不
九合^{タニアセトモ}与^ミよりりてか^カらざる事^{コト}を皆^ミ以^テ是^レ神^ノ徳^ノ功^ノ
且^ミ分^ニ化^シ神^ノ馬^ノ津^ノ審^ノ主^ノ神^ノ乃^レ世^ニ論^ス一^ニ並^シあり
たり^キ修^メる^キ類^キを^タラ^キ考^フ徳^ノ考^フ傳^ノ曆^ノ依^テ記^ス略^シ縁^ノ記^カ
ど^ノ不^キ意^キ記^リ一^ニ記^シ傳^ヘ一^ニかり^ニ能^ク中^ニ習^シ合^シ本^ノ地^ノ
由^テ結^シ以^テ雜^シ之^ニ然^レ既^ハ自^ラ知^ル易^シ一^ニ御^スと^モ上^ノ拜^ス
の^キ意^キ記^ス神^ノ編^シ或^ハ一^ニ二^ニ策^シ以^テ遊^シて^ハい^ハず^ニ是^レ爲^ス
と^ナり^キと^モ依^テ記^シの中^ニ又^キ接^シ雜^シへ^テ其^ノ類^ノを^モた^スる^キ
形^ノ好^シ一^ニ法^シ社^ノの^ノ通^シ憲^シは^シ意^キ記^ノの^ノ湮^シ滅^シあり^キ傳^ス
據^ル尾^ノ結^シ亦^キ自^ラ知^ルと^モ其^ノ素^ノ蓋^シ爲^ス其^ノ結^シ傳^ス其^ノ類^ノ

此^レ之^レ先^ニ第一^ニ熱^シ田^ノ宮^ノ以^テ一^ニ先^ニ一^ニ文^ノ國^ノ府^ノ宮^ノ又^キ
は^シ大^ニ社^ノ社^ノ名^ノ古^ノ屋^ノと^モ坐^シと^モ天^ノ王^ノ社^ノ羽^ノ梁^ノ那^ノと^モ速^シ
依^テ須^シ社^ノあり^キ事^ト也^ト風^ノ志^ノ記^スよ^リ乃^レ白^シ是^レ以^テ例^シを^モた^ス
二^ニ更^シと^モ之^レ屋^ノ社^ノを^モらん^ノは^シ也^トと^モ主^シ社^ノ今^ノの^ノ名^ノ
自^ラ乃^レ由^テ結^シと^モあ^リて^ハ強^シて^ハ也^ト沙^ノ法^ノ一^ニ也^ト也^ト
日本^ノ仁^ノ圓^ノあり^キて^ハ武^ノ志^ノと^モ有^ル人^ノも^モ洋^ノ也^ト也^ト
人^ノ文^ノ士^ノの^ノ詩^ノ志^ノ一^ニ異^シ邦^ノより^ハの^ノ質^ノ直^シ也^ト也^ト
志^ノ子^ノ志^ノを^モ稱^シ也^ト也^ト一^ニ志^ノい^ハず^ニ一^ニ吾^ノ社^ノ也^ト也^ト
て^ハ百^ノ王^ノ一^ニ社^ノの^ノ統^シ自^ラ齊^シ天^ノ壤^ノを^モ窮^シの^ノ社^ノ也^ト也^ト
慮^シり^キは^シ徴^シ也^ト也^ト一^ニ意^ノも^モ我^ノの^ノ社^ノは^シ文^ノ志^ノ也^ト也^ト

備乃始祖神且本邦草創乃神功末苗乃
 神よりりありと亦同く文ゆり何そ和歌祖
 神之衣と何そ毛軍神の才一なり天照を神と
 神系に坐し一表裏一双の神徳神史の念
 旨ありし何そは世武林の御祖神と見え
 皆神皇皇御裔神孫に承事されは更
 といえず源頼朝平信長秀吉乃三公とて
 上洛高國よ中興ありて 御高家
 世に 神皇御子枝孫系乃御玉とありて
 とい月日陪て業ゆりありし存應よとて

つけ於氏尚まて統波の如臨り者より
 此恩波に流るる事とわらわくされ玉治
 是中邦本主者玉造乃神裔神孫に承事
 ようあり列國如神の如くごも月よありす
 ら我尊神に結坐れし一先神氏尊の英
 神の冠冠を冠りてす龍神の座を
 像りては神孫の如く又は神孫の如く
 是を制しありて神氏をては色水と
 是と養せしめをが男女如神と救いあり
 よりありて自ら他邦をその福あり

神皇御記

とあり平少弼を城へ申所結坐ひ氣院よ云
秋一子二百有七十一歳又行よぐりむ博桑牙
一を及の又嘗とふ無異湯莊親なり

○或曰津嶋祇園云とハ兒女の記也 曰有反
夫祇園といふ事と云祇と牛頭天王と配
身より中々天竺祇園精舎に獲伽藍祇とす終
より京師祇園も亦同くあり小太事
尊の神功於本邦天照尊祇と表裏ハ傳と祇
其は不珍刻はるあといふ事京師の祇園とい
らり法和帝貞觀十八年よも傳とハ此説を

高社よはるる故實として京人の等ハ此
及より奥よ一説あり貞觀十八年葦下
流渡乃時ト於平磨術令祇與ハ振京
と後と云ハ時高宮乃祇分法ハ彼祇與
假り感祇院と置とハ他後昭宣云乃奉と
して祇社よ新建ハありつる由も亦世より
い一説あり高宮よりと云祇院法を事
靈夢此論より此といハ記ぬ少事乃説法言
一云檢よ必事といはれありハ己ぬ意よ彼磨
主ハ高國中祇院と傳つる由史中ハの云記也

然ば海部知とお隣に思入の地なれば平
素の社好りと云れりる人一は彼を社と
祇堂乃中社と云れ一祝ありて京人三
又ありて世より申されは想像なる傍
人云京人と云くと強信しかり何れぞ
大社の業と云んと日繫吾子過たり
よちりてあて世より云く是人等と同
不辨耶依て言還て我の社には不
私又言公推しや人お肯と云くや
好法師が津流系死と云物ありて

乳もよ毛と傳く什寶身一好物なりと
乃旅傳又竊まれし中當時乃修傳
申予の父祖より同傳くも也水
之事かれど吾師指ささるる
修傳乃山中日菴にひて修
れ社より谷跡を以厭ひし一
と云ぬるりて又行され栖老
のこ妙つる由かれは昔人京
いすり必い津流の流りと

なよ名ふれば其忠の疑ふ似たり

○或曰西得津嶋乃後とは松詞獨の抄と云ふ
よ方系集其説と接して西海の對するす吾子
の既翻語と云ふありと云 曰甚亦國令
く味懼多事我其終乃い比は地は座一あり
万系勅撰已あり津嶋抄後りれ故若い何は初れ
已獨の抄乃説と方系集より三野連へ入る所
菊首老の作れく歌とて引記を對する後々中
爾幣取向天早飯來年と云ふ物とを異邦と
撰いとする人の餘別なれば此の津嶋よりありと

と記しえりむ津嶋と對ると文字異れり

一津史は方系通南するより所不考貴之且

先對馬より大洋は津島中津嶋はよりあり

津一作例もあり又詞書よりと云ふす是一八

御鈔ハ水徳院の製作なり後部は津嶋後

尾張とあり藤原系其後部少と云ふと周禮を

是二彼万系集勅撰の時代は奈良七代の事

と云ふ入る事系よりと縣より下向し異邦は道

と云ふあり路の津嶋後よりと鎌もい今世系集熱

田乃名後のごとく爾來和歌抄よりと西の派

津嶋抄

し

津浦より揮う事れは長江なる甲斐河すて
泉野の系文集に中務卿子今日の月はい
りそよま望私人の津浦のそり凡そそを名
寄る鴨名内侍勢ぐといが言ふなり津浦より
甲斐河ゆけばつもの系又名明の海道記の遺書
九年為孫福將軍の十月下旬向總念の乳
行也彼記に津浦の事市腰為萱津浦
の事やぞ揮う書とい且又陸海とい吾も津浦
事修かする津浦も名亦名なりて通ふの古
驛船港なり延喜部式諸国驛の章に尾張

津浦

津

國驛る馬津 西村又傳る海於 愛媛 云近頃又文報
二年の古記文を閲せしめし津驛港の事
も今もらるる百六十一年前の事之郷ともい
とゆむ津津津驛路に船港も名ありて
津は今も松川とい地也又河津釣船の色
と馬津と云ふも或人云陸海とありし黒僕よ
と南よさがりて河津釣船より津よあり
のり後しなればし之當所あり津と陸也驛
也と東鑑才八文治四年二月記云尾張津津社
板垣冠者不辨不辨 不辨 不辨由之申す云知ら冠者不辨

津浦

津

書^{ガキ}し修理^{シユリ}寺^ノ家^ノとわりされと修理^{シユリ}寺^ノ冠者^ノ
たよ名^ナ氏^シ嗣^{ツギ}たり按^アるは文治^{モンチ}元年^ノ頼朝^{ヨシノボリ}御^{ミコ}進^{シン}
捕^{ツカ}使^シ地頭^{ヂカウ}職^ノ形^{カタ}より勅^{ツク}許^クと蒙^{モウ}り同^{ドウ}二年^ニ三
月^ノ法^{ポフ}列^{リヤク}は惣^{ソウ}追^{ツイ}捕^{ツカ}使^シ地頭^{ヂカウ}と稱^{ナヅケ}せられ地頭^{ヂカウ}姓^{セイ}
理^リ氏^シの相^{サウ}摸^モ守^{シュ}時房^{トキサウ}はけ人^{ヒト}徳^{トク}念^{ネン}三^{サイ}代^{ダイ}の時^{トキ}
春^{ハル}時^{トキ}と同^{ドウ}く政^{セイ}道^{ドウ}河^カ行^{カウ}の宣^{ノビ}朝^{チウ}入^{ニツ}唐^{テイ}の申^{マウ}申^{マウ}
左^サ小^コ謙^{ケン}諱^{ツラシ}せし申^{マウ}を修^{シユリ}理^リ寺^ノ上^ノ任^{ニツ}ざり八^{ハチ}十^{ジュウ}六^{ロク}
代^{ダイ}田^{テン}條^{ジョウ}院^{エン}嘉^カ禎^{テン}二^ニ年^ニ申^{マウ}して右^{ミダリ}軍^{イクサ}の頼^{タカ}經^{ツネ}より前^{マキ}
此^{コノ}修^{シユリ}理^リ寺^ノの号^{ナヅケ}の且^{ツク}文^{モン}治^{チウ}元^{ゲン}年^ニより時^{トキ}房^{サウ}の
卒^{ソウ}年^ニ仁^ニ治^ジ元^{ゲン}年^ニの僅^{マヒ}より五十^{イハチ}を能^{ノビ}く又^{イタダキ}板^{イタダキ}垣^{ケン}

冠者^{クワンシャ}と為^ナ行^{ユク}もや惣^{ソウ}義^ギ記^キよとのる範^{カネ}頼^{ヨシノボリ}は地^チ
て平家^{ヘイカ}進^{シン}討^{トウ}乃^{ノウ}たれよ下^{シモ}向^{ムク}せし人^{ヒト}の着^キくは惣^{ソウ}行^{ユク}が
苗^ネ裔^エの板^{イタダキ}垣^{ケン}もや未^ミだる考^{カウ}とてと仰^{オウ}せよ申^{マウ}るれ
年^{ネン}所^{シヨ}帝^{テイ}鏡^{キヨウ}の又^{イタダキ}系^{ケイ}代^{ダイ}経^{ツネ}とれとて久^{キウ}しかす且^{ツク}
時^{トキ}房^{サウ}の卒^{ソウ}年^ニの仁^ニ治^ジ元^{ゲン}年^ニの僅^{マヒ}より五十^{イハチ}を能^{ノビ}く又^{イタダキ}板^{イタダキ}垣^{ケン}
并^{ナヒ}之^ノ以^{ヨリ}文章^{モンショウ}生^{セイ}紀^キ範^{カネ}とて若^{ニシ}者^{モノ}より地^チ頭^{ヂカウ}と新^{シン}
稱^{ナヅケ}せし解^ゲ狀^{ジョウ}二^ニ通^{ツウ}今^{イマ}在^{アイ}あり彼^カ地^チ頭^{ヂカウ}職^ノの由^ユ被^ヒ録^{ロク}
よる津^ツ藩^{ハン}の小^コ倉^{クラ}元^{ゲン}の十二^{ジュウニ}代^{ダイ}と稱^{ナヅケ}し監^{カン}司^シの
又^{イタダキ}名^ナもも是^{コノ}時^{トキ}はきと礎^{ソコ}石^{イシ}と稱^{ナヅケ}あり申^{マウ}同^{ドウ}あり
且^{ツク}よ所^{シヨ}謂^{イハ}是^{コノ}地^チ頭^{ヂカウ}職^ノともあはれは延^{エン}治^ジ十^{ジュウ}二^ニ

字の持州教て、借借よ十二歳といふ事、疑や
又揚よ比部ありて、と神社管外職處をせと
て規模とかりしと、總念の時より、武家考よ、執
定いふ由、東郷よ、あましく、名、あ、い、る、社、の、管、外、
職、と、修、理、を、ま、り、て、ま、下、司、地、頭、か、う、商、社、の
處、分、所、急、し、ま、や、又、國、司、如、時、大、領、少、領、といふを
下、司、な、れ、は、ら、ま、り、ま、り、ま、り、の、人、此、處、址、と、名、し、ら、り
越、て、じ、う、人、階、級、所、階、り、い、黒、僕、ら、り、る、津、よ、り
ら、又、ま、り、危、難、疾、疾、系、法、源、より、馬、津、よ、か、り、ら、り、と、
と、ど、ま、り、津、の、驛、所、より、新、津、よ、り、津、の、萱、津、

勢田井戸田河經て、鳴海よ、か、し、と、也、船、海、は、是
と、危、難、バ、り、ま、り、ま、り、津、の、港、よ、り、ま、り、
萱、津、よ、り、ま、り、經、て、若、生、村、よ、り、伊、勢、の、陸、原、
郡、甲、斐、河、泉、地、所、經、て、越、之、若、生、村、と、兼、名、曰、
日、市、此、間、長、生、といふ、而、是、こ、る、津、際、よ、り、い、
長、生、よ、り、ま、り、の、後、よ、り、津、修、後、といふ、り、系、よ、
日、市、(ア、リ、ム、) 長、生、よ、り、お、船、し、て、今、の、市、腰、よ、り、
日、市、萱、津、よ、り、ま、り、由、是、を、津、修、所、津、河、り、と、し、ら、り、
海、道、元、の、勢、ま、り、宗、祇、う、る、名、所、方、角、抄、よ、今、
の、津、修、所、事、に、始、と、し、ま、り、建、師、か、れ、は、ま、り、

勢田井戸田河經て、鳴海よ、か、し、と、也、船、海、は、是

右所の事多し為て津崎の海り也津崎と
津崎といふ所の有る事よん所ありは津
なり今にむして市振崎の外に後世の在る名は
刈市腰七郷といふなり所謂七郷を二上
西保東保西條東條本部田邑也主館は後の
庄名は津崎といふも馬津の漆姑川向の上河原
所町船戸棧場等れ是名所といふは船戸小漆
と後世より所といふれて是今に在る所也
の時徳永法平壽昌の移文あり云云之
梯勢別道は還る所なり徳浦船在是津崎

可定之名海徳は系云計部は津崎可定
要作證言十月四日徳浦并漆姑川中徳永法平
云玉津崎といふ紀列乃玉津崎といふ寺あり有
殿といはれり是里徳川の津崎棧場云々といふ
一例ありて故云あり又徳永法平神氏此に加
者安信并大橋樂庵と命して船戸乃小港と
今乃所町といふは徳文を今程あり船橋
納之信業といふは名區傍比乃名代也
多あり或は神仏あり由より又人あり
乃秀祿といふは京義乃外南瀨西備中區東

鄙在よきまより均除授人為封邑為治不得譴責
 人為配市乃類皆職而中由也南國乃歌梅名
 回乃望星傍底傍常岡山笠原津浦夜寒里打見
 松尾里修陸濱夜山馬津津海畔浦後海熱田井
 和田新溝玉井里衣浦津傍後等是乃以介
 右我場又と山門此は森林まむうてと載籍の記
 不マ牧半又危法九洲とよる最久記ま及くさう塔
 囊抄まの菅法公乃危別記所接てゆら川乃名
 美大已貴少名名二律ゆさうえのよふ是海の和
 語とも興ひ事を記さるゝ又南國八秋の内よ除

正回那乃海東海西二郡は海約と割て方り延
 主税式よへ修縁海郡異邦乃圖書者名編よは危
 強乃二郡ま修安乃あまなりけ外尚西乃
 里名と修名名鈔危法風と記がくふとんて半
 盤たれと略と門ま修とハと門ま不門ま不と天
 玉川乃水と教材とと門ま修と中近里教材と名下
 門ま修ととり毛別乃基ま落乃割ととあ和
 名抄と陸まつさておれと以東西と毛海東海西
 乃彰と水流たりまさうの厚ま下喚と毛と門ま真
 下門ま修と水おたり天王川に疆て海東海西

そふかりは是故に意記并に後終は當社をも
く爲海西亦也店といひし山莊別業乃
事にては基師兼歸易店は縣爲郡と
了右村長村主の稱と今世は皆店目といひ
名は店屋といひ也縣の字割古平神也郡
の謂也年終といひ割せり店の字は史中は燕田
名と併の外高宮乃故矣又義已下社事逐一
一記印後録故也略焉

○文系元始考

○夫諸社の中事元を多礼といひありて十二月

律勅大旨皆朔夜一則日氏事と撰と元州天
下玉家老全空窮の初後也高宮の中事律
前漢初の如し律氏河憐といひ避暑はたか
て始りといひる祭なれと六月から秋祭へ遷り
越乃律氏比士の律勅少して律氏は唯律氏
輿と奉薦し十四日時丑の律饌而巳は勅りま
でなれん或は故際或は風ぬの際は大抵月と延日
と易う事と亦並例なり律氏は事れ
この形より律氏といひて延日といひて
在の礼邦家の御務を述はし六月の天嘗々

尤も^{ヨウキヤク}要^{ヨウ}御^ミ極^{キョク}多^タありて他^タ列^{レツ}他^タ種^{シュ}と勅^{トク}と法^{ホフ}
別^{ベツ}に双^{シュウ}乃^ノ洞^{ドウ}言^{ゴン}を^ヲら^ウゆ^ニは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ爲^スる^ルの^ル衆^{シュウ}と^シて^テ
よ^ハめて^テ延^{エン}引^{イン}せ^シら^ル事^{コト}を^レれ^ル神^{カミ}お^ハせ^シぬ^ル事^{コト}より^シり
て^ハ忽^{トウ}か^ラう^ニは^シり^テ是^レひ^トく^ニは^シる^ル神^{カミ}と^シて^テ隣^{リン}の^ノ神^{カミ}也^{ナリ}
よ^ハ起^キり^タら^ズが^ハゆ^ニを^レり^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル時^{トキ}時^{トキ}正^{テイ}に
後^{ノチ}に^ハ事^{コト}を^レれ^ル神^{カミ}也^{ナリ}之^レ也^{ナリ}國^{クニ}民^{タチ}は^レ憐^レれ^ル也^{ナリ}と^シて^テ
養^{ヤウ}生^{セイ}は^シる^ル飛^ヒ鳥^{トウ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ
の^ノ辞^ジ別^{ベツ}は^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ
也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ
なん^{ナン}系^{ケイ}り^タら^ズ也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ
を^レ韓^{カン}邊^{ヘン}之^レ也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ

寫^シる^ル夏^カ王^{ワウ}の^ノ飛^ヒ人^{ニン}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ
あ^ハる^ル神^{カミ}多^タく^ニや^ハ神^{カミ}也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ
は^シる^ル神^{カミ}也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ
和^ワし^テ神^{カミ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ
時^{トキ}は^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ
世^ヨは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ
彼^カれ^ル神^{カミ}乃^{ノチ}に^ハ神^{カミ}也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ
集^シる^ル神^{カミ}也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ
重^シく^ニ揚^ユげ^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ
吹^フいて^ハ然^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テは^シる^ル也^{ナリ}と^シて^テ

神皇正統記

戲乃くくかす歌小し乞所歌トあふくしは魯れ
月波交野たふ元入道然全が元和二年記し判し
倚牧乃うまい吹笛もかきつかりのあふくさく
とゆきとけつ事ぞう熱て神悦しと小児乃を
智云我あふま記しあふいて長人の思ふ所は弦と厭
ひあふくし神記し示とごとく世神乃は法坐乃故
神氏乃夏日に不堪を晴し憐とあふいてそをが男
女遊界乃なあふくし骨あふくし身一し論誦あふいて
和上の樂しと神よ車樂下あふの樂曲妙喜此節
夢列洞河神歌しあふくしもうい樂の下成と車

系神津鴻笛と喚初ゆり也む今世る笛生と神
笛乃列譜奇洞なる申は傳くぬれど中譜抄る事
あふり夫神の系系と神代は天懸戸あふ起り
神系乃神凡となりて系系と和琴の六張の弓弦
と弾トあふくし初とあふくし修持冊号をを巻あふ
横笛此歌は天鈿女命天香山乃竹をきてあふ
し風穴のいりて造りあふくしかりも系竹の元枝
木々合々の縁ぞう我系蓋鳥号此を列あひ
し天詔琴かぐい少く物不觸れど山河系木勅
ち申て代意事か紀しあふくし加稱子西藤歌

乃中^{クハイテイラク}小^コ廻^{クハ}庭^{テイ}系^{ケイ}事^ジ也^ヤ妙音^{ミョウオン}流^{リウ}大^{ダイ}啓^キ臣^{シン}所^{ショ}長^{チヤウ}公^{コウ}
 の仁智要録^{ニチイオウロク}又^{マタ}載^{サイ}其^{コノ}事^{コト}云^ク云^ク豐原^{トヨハラ}統^{トウ}秋^{シュウ}郷^{キョウ}述^{ジュツ}作^{サク}神^{カミ}原^{ハラ}鈔^{シヤウ}云^ク云^ク
諸^{シヨ}名^ナ目^メ利^リ云^ク云^ク豐原^{トヨハラ}統^{トウ}秋^{シュウ}郷^{キョウ}述^{ジュツ}作^{サク}神^{カミ}原^{ハラ}鈔^{シヤウ}云^ク云^ク
 續^{ツグ}志^シ摩^マ亦^{モト}曰^ク廻^{クハ}庭^{テイ}系^{ケイ}事^ジ中^{ナカ}絶^{ゼツ}早^{サウ}お^ホ徳^{トク}名^ナ叢^{ソウ}
カヤク 芝^シ原^{ハラ}之^ノ零^{シロ}亦^{モト}用^{ヨウ}此^{コノ}系^{ケイ}云^ク云^ク此^{コノ}系^{ケイ}乃^ノ琴^{キン}譜^フ也^ヤ吾^ガ等^ト
 神^{カミ}之^ノ制^{セイ}若^シ一^{イツ}あ^ハら^ハり^リ何^ニ儀^ニ仁^ニ智^ニ要^ニ録^ニ也^ヤ彼^{カノ}叢^{ソウ}
アノコト 芝^シ原^{ハラ}之^ノ零^{シロ}亦^{モト}用^{ヨウ}此^{コノ}系^{ケイ}云^ク云^ク此^{コノ}系^{ケイ}乃^ノ琴^{キン}譜^フ也^ヤ吾^ガ等^ト
 又^{マタ}曰^ク仁^ニ智^ニ要^ニ録^ニ中^{ナカ}絶^{ゼツ}早^{サウ}お^ホ徳^{トク}名^ナ叢^{ソウ}
 非^ヒ幸^{キヤウ}還^{エン}作^{サク}也^ヤ管^{カン}信^{シン}而^{シテ}一^{イツ}也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々一^{イツ}也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々
 遷^{エン}矣^ヤ情^{セイ}之^ノ入^ニ心^ニ也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々一^{イツ}也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々

此^{コノ}人^ニと^{シテ}有^ル事^{コト}少^シ割^ワへ^テ管^{カン}信^{シン}而^{シテ}一^{イツ}也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々
コト 古^コ之^ノ圖^ズ也^ヤ德^{トク}之^ノ誰^{タレ}舊^{キウ}址^シ也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々
 今^{イマ}也^ヤ朽^ク邁^{マイ}之^ノ柱^{チウ}一^{イツ}株^ク乃^{シテ}一^{イツ}樹^{ジュ}也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々
 十^{ジュウ}王^{オウ}堂^{ドウ}之^ノ水^{スイ}也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々
 探^{タン}之^ノ事^{コト}河^カ之^ノ中^{ナカ}葉^{エフ}也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々
 其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々中^{ナカ}之^ノ神^{カミ}教^{キョウ}等^ト也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々
 日^{ニチ}之^ノ神^{カミ}之^ノ宅^{タク}也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々
 其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々彼^{カノ}之^ノ邑^イ也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々
 其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々巨^{キョウ}細^{サイ}之^ノ筋^{キン}也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々
 其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々之^ノ人^ニ也^ヤ其^{コノ}儀^ニ表^{ヒラ}々^々

仁智要録

所謂廻廻系なり〜とて傳聞記よみゆ

○宵祭考

○謹按よ廿六月大祭と宵祭とありて神事此年
夜より故よ祈宣記〜と註系と唱ふ〜す
下唱信系云云名同鈔よと云んぐ〜と唱ふ〜
ゆれと祈異なり風致あり南祭の註系は先
六月二日に始て八日に終り毎町車屋ありて酒系
〜十三日に至て江口よとありて終る註系〜と
神事よ兎も又傳て十四日宵祭十五日朝祭
宴會の祈り瓜をいそを里信よ八歩舞〜と云

と尋考系竹の調子笛は高取等乃丸調又と
琵琶の控合と調系といひ註系といひの形例
よ異也宵祭は是れ大祭始元旨なる事い前已
に傳ふがごとく神事あるありて祈宣又興りの
れど是れ元夜〜として市敷里牧笛の事〜り
〜あり〜笛調は〜今又津島笛と稱〜且祭
始む是も亦津島川松上の宵祭ありて市敷
村乃宵祭は是れ第一とありて勤りとされ
こむ疑ふよ不足なる事〜と云んぐ〜と唱ふ〜
よ同く神事の祭ありは偏能と云んぐ〜す唯

そ元旨を礼し一知一解の備るるは徳く時を
異邦矛盾とあて越て神意は背らむべし
新例一徳別神社の通憲也程梅又南風
波唯此別第調系鼓乃調系も亦既よ意あり
市腹車の調系ハ也手波津浦車乃調系ハ也
亦云考之律系葉葉抄刻之古傳云此
▲○●○片地▲○●○引取▲○●○ト云云由是相
付調の調系ハ片地ありて此の略々市腹此調
考ハ此地ハ略ありて引取若引取不事古
凡亦神系乃調系ハ殊勝乃車を感嘆

者乎又車系私ハ挑挑越て三百六十箇は
象一氣日教志程ハ挑挑十二箇八月教也
如子欄口傍の地勢三十箇を一月の教云云
取系在よ皆奇観ありて青系又板船との能え
映水照空ありて一月月始之星雲納光あり
觀不減表之物的大凡此等神御結坐此六月
祭礼は好一輩下乃祇園云備故も疫濁社よ
とありとせん不知言否危強風云記よ根葉部速
依瀆の神社よと云十六日云系有之と記せりや
是也切なりは系善齡乃至今是と考るよ

あは不^{フシラ}後^キ危^{サイ}業^キとてと不^ル減^{ゼン}漲^モりよわらざらば
由^イ盤^ヤ業^ニとて小^コ業^ニとてと^イ海^{ウミ}傍^ニの^サ莊^サ親^クを^シ非^シ
るの^カ形^カい^ハあ^ハり^トす

形^カ骨^ボ系^{ケイ}

私^シ系^{ケイ}博^{ハク}業^{ヤク}等^{トウ}一^{イチ}場^{ジョウ} 月^{ツキ}の^ノ業^{ヤク}指^{サシ}系^{ケイ}地^チ光^{クワウ}
介^ケ係^{ケイ}更^ス怪^{クワイ}飛^ヒ賊^{ソク}獲^ク 心^{ココロ}狂^{キヤウ}改^{カイ}雷^{ライ}沸^ヒ滿^{マン}塘^{トウ}
水^{スイ}乃^ノ西^{セイ} 多^タ如^ニ海^{ウミ}と^ト一^{イチ}多^タ々^々
月^{ツキ}之^ノく^クく^クの^ノ形^カい^ハあ^ハり^トす

○朝^{アサ}系^{ケイ}考^{コウ}

○史^シ六月^{リク}の^ノ大^{ダイ}系^{ケイ}と^ト骨^ボ系^{ケイ}を^ヲ信^{シン}系^{ケイ}前^{ゼン}件^{ケン}の^ノく^ク

それと^ト骨^ボ系^{ケイ}の^ノ形^カい^ハあ^ハり^トす 市^{イチ}販^{バン}村^{ムラ}の^ノ牧^{カキ}畜^コ以^イ嘉^カ
ト多^タ々^々と^ト起^キり^ト車^{クルマ}系^{ケイ}一^{イチ}成^{テイ}の^ノ業^{ヤク}曲^{キョク}と^トも^モか^カれ^レ
骨^ボの^ノ系^{ケイ}の^ノ憶^{オキ}ね^ネ非^ヒあ^ハり^トす 又^{マタ}翌^{ヨク}朝^{チウ}東^{トウ}映^{エイ}の^ノ系^{ケイ}
あり^トす 世^セ時^ジ也^ヤ市^{イチ}販^{バン}車^{クルマ}と^ト先^{セン}と^ト友^{トモ}郷^{キョウ}隣^{リン}の^ノ非^ヒ論^{ロン}
乃^ノ系^{ケイ}よ^ヨの^ノ物^{モノ}が^ガな^ハり^ト津^ツ橋^{ハシ}車^{クルマ}系^{ケイ}一^{イチ}成^{テイ}の^ノ業^{ヤク}曲^{キョク}と^トも^モか^カれ^レ
と^ト歳^{サイ}と^ト精^{セイ}掃^{ソウ}し^シて^テも^モ色^{シキ}つ^ツれ^レと^ト先^{セン}と^トも^モか^カれ^レ
と^ト者^{シヤ}之^ノ郷^{キョウ}淡^{タン}と^ト滑^{ワカ}く^ク牧^{カキ}畜^コの^ノ重^{ジュウ}質^{シヤク}と^トも^モか^カれ^レ
物^{モノ}と^ト今^{イマ}の^ノ車^{クルマ}の^ノ形^カい^ハあ^ハり^トす 揚^{ヨウ}と^ト手^テ巾^{キン}と^ト取^ク掛^ケ
と^ト予^ヨ操^{ソウ}と^ト形^カい^ハあ^ハり^トす 市^{イチ}販^{バン}車^{クルマ}と^ト先^{セン}と^ト友^{トモ}郷^{キョウ}隣^{リン}の^ノ非^ヒ論^{ロン}
と^ト予^ヨ操^{ソウ}と^ト形^カい^ハあ^ハり^トす 市^{イチ}販^{バン}車^{クルマ}と^ト先^{セン}と^ト友^{トモ}郷^{キョウ}隣^{リン}の^ノ非^ヒ論^{ロン}

教丈より述べたる十二三月に及ぶ物事すして施
じや又茅草とて物と信奈の幣帛丈人定て
主帛緇帛幣物とて上標より下より茅
紙の古風なり毛亦遺風をなす風致ありて
彼茅草付たる白布悉く非家此配ありて
手巾取掛たる野なりとて何す熱て茅草
の串とて物と信奈式條とて又云見
と天皇神女乃風姿之心車に與給此跳ハ所
引雲子妙善也と此流は善哉と知らん妙善句
引生類物一和漢より直して不為事と云流法

最三年十一月平相公等恨法自一割妙善
院大改之居師長公所為て終に被請ふ井戸
田此時公精熟田於神前被彈琴三曲ハ流
泉歌本揚三操乃三曲又と云石象の秘曲
かり此時緯法と跳々と又十割抄よはけ時熟
田とて管管月下に於今生世俗文字之業とて
朗歌のりたれば寶殿唱物とて記せり吾れ拾遺
小色結業文切雅よ坐て好笑及妙術吾れ
川出幸の時吹せありと末曾るの精度物扱
物法よたたり又聖法を子生約ありて笑笑を

出せありし時と百獸を或は傾首と云りかゝる天授
の瑞和漢より故りて不遑記極妙の象の
象と分危形の初殿と映じり脚をいへんは
境乃高樓三山人世より多れん地と市勝村
の先車申系以来の車と網如と同初津橋より
車系五輛の車と柄をせり船とよ設危形と重
偶人相古大極下見の雅系と奏と心車と重組
木敷文むすび覆よフシ幕とふと設難々之偶人自
角探之アサヒ級不定純伸む不易の指わり今人
放チカ鏡ニツさうわは先車の標とすされと天

正乃酒ヨロよりあり又一種不易の車あり於心車
之上ニ系蛇形下レに合浦老翁老婦里流云蛇形
の尾八岐大蛇也二老は足摩乳手摩乳也前系
蓋サノ鳥ヲ出シるコト乃玉敷川とのな事とらんと按
又諸社の系コトと世等コレの車ありの衡性来よ
橋イナあり系よ蛇ツと云之コト略曰又三散系之ツ然カ文
婦メ之シ体テイ字ジ老翁ラウ翁ウ夫フ模モ蛇ス如カ婦メ始ハ交カ配ヘ云
及ニ交カ接セ於ニ人ニ士シ女メ之シ見ミ者シ莫シ不レ解レ願ハ影カ賜ル
性シ之シ甚キ也ト云又一統大橋家清カハシよ南ミナ系ケ始ハと
沙サ法ホウをシりテ略レ曰ク曰ク家カ大橋恒川七氏ナカノ
大橋恒川七氏 河田河村貞神眼 都平世光改於本

コレラ
世乃十一黨始十一輛之車系并山車ヲ統曰
性首芳地系所兩帝蒙蒙之故十一黨等其
吾野曾子力我性之故不利小して寄宿津
鴻布危地大橋某之居市頃市腰村に在車系
大隅守是強敵也時圖曾子之居能是十一黨
等相強して始船系引大隅守守不覺而私
しく見之七氏乃仲服部某豫也市腰お排て
討之漢私同者又排笑凱歌曰車系付りくと
是主得也云云統排不仲云校甚し況口家と
武家系流七氏と堂上家乃商皆故よ曾子乃

此の記述は

二十二

孫を祀まるとして七氏を社官の統よむと云ふ
部憲記一事と少説の代遷文の古情あり傳
史記又終よ末及之少系乃抄中憲記代記
と略と為十一輛者先代故不中の才一也何者
我社の憲記よ為十二輛と云云云象一系之
月教且天と十二系社中比佛十二社將云云
系といは津橋第一如別講名自少してぞんむ
の和徑等甚故其たり今略焉市腰村の車と
亦憲是も車系山車二輛中右不敬者ありて末
畢系よ山車此地形解して舎の忽入精神沈

此の記述は

二十

没山車爾乘車系一輛而色くかりぬ彼沈没の
測稱蟠尾今は洞より且十一黨等來此近
一赤岩が後山伴友松大夫部横江等の教事
りて世邦民の地士としていあ(合不親田幹社
事遷文此每交よは各引社子且頂戴大幣
世事遷文記又ち勅制記に載て歴署あり
物品如法大社之地士今衰廢して商家と
ぬ里俗よ名持とい名主やとい影乞かり彼十
一黨津嶋よ事り加る事も亦尚一主家藩は
名親縁わりて來此よの記して主由と不祀事

宿の事を詳で深根固帯せんといへ今世邦
苑よ七氏わら事社を變世紀氏乃故をたよ詳
陀記故不贅板約衆よ山車ハ川卷より漕舟
車系私ハ皆著岸して児をよ社あよ事り於
教養系早て与社を慶祝献酬乃是礼あり
畢竟て末社社々觀廻りて下向一富社の
社流よ色赤系して名系私をよとたよは
よの帝腹の児よ家与社官河村氏於孫殿
礼よ事彼社よとせよ同十二輛より十一
輛よ及ても意記の實文社宣乃故矣勿る事と

赤岩の記
上五

為め人々を掃くむ可嘆爾或云兩京の莊筋
世又從て美惠一善盡とより古の形も有りや
と曰て神系とも不取換蓋理の如くありと填分
新地そり

須知系

鶯映朝暎舞樂舟 霧中彷彿仰仙樓
一成別笛餘音裏 時去人散水自流

朔秀の肉より漏る笛あり
雪の何處のありをいさそり

○要脚調を考

○津嶋よみ色あり米産塘下待場今多場下
操をかり車屋の商家を祀先塔地士存り人
又四家七氏存り加りて故亦己み尚一は亦の皮
人此大系よ幹よりいされと亦善徳曆とりの意
記又雅かりしと名も南系をむりより津嶋渡の
多際をれえ下操今市場待場乃車に意より
多上河渡一塘下米産の平の上ありて思車有り
を夢衣口系よも酒命清酒塔主産摩守忠吉
より要脚の雜用料を揚りて悉く船系と
かんぬ是刻劾例性乃脱なり彼器車乃一掃

ありしを封^{ホウシ}多^{クニヤ}車^{クルマ}瓦^{イハ}子^コ体^{タイ}古^コの^ノ考^{カウ}又^{マタ}納^{ノウ}り又^{マタ}長^{チヤウ}
 政^{セイ}主^{シュ}之^ノ註^{チュ}を^ニ云^フ津^ツ濤^ト系^{ケイ}船^{セン}十^{ジュウ}一^{イチ}柄^{ヘイ}悉^{シツ}皆^{ケイ}階^カを^シ
 海^{カイ}中^{チュウ}に^シ船^{セン}業^{ゲイ}左^サ滿^{マン}つ^クま^シ某^{ケイ}取^キ次^ジを^シて^キ悉^{シツ}可^カ為^ル船^{セン}
 上^ウ之^ノ系^{ケイ}之^ノ由^ユ蒙^{モウ}國^{コク}裁^{サイ}且^ツ雜^ザ用^{ヨウ}料^{リョウ}六^{ロク}十^{ジュウ}石^{シツ}を^シ編^{ヘン}り^キ
 船^{セン}二十^{ニジュウ}艘^{サウ}竹^{チク}敷^{シキ}敷^{シキ}百^{ヒャク}竿^{サン}と^シ被^レ易^イ主^{シュ}及^{マタ}平^{ヘイ}農^{ノウ}
 氏^シ各^{ナニ}蒙^{モウ}國^{コク}余^ヨ又^{マタ}從^{ジュウ}神^{シン}焉^ニ每^{ヘイ}歲^{サイ}永^{エイ}可^カ從^{ジュウ}計^{ケイ}例^{レイ}旨^シ之^ノ
 之^ノ至^シ今^{イマ}予^ヨ意^イ神^{シン}宣^{ケン}之^ノ由^ユ際^{サイ}又^{マタ}總^{ソウ}て^シ初^{ハツ}一^{イチ}免^{メン}
 多^タ少^{ショウ}幸^{コウ}舊^{キウ}記^キ乃^ノ之^ノ美^{メイ}文^{ブン}お^ハれ^ハは^ハり^シ是^レ又^{マタ}是^レ車^{クルマ}此^{コノ}是^レ
 と^シて^モ水^{スイ}際^{サイ}と^シ引^{ヒキ}海^{カイ}中^{チュウ}に^シ勿^レと^シ十一^{ジュウイチ}柄^{ヘイ}を^シ心^{シン}に^シ
 是^レ車^{クルマ}と^シの^ノ既^キハ^ハ舊^{キウ}也^ヤ勅^{チツ}例^{レイ}性^{セイ}の^ノ既^キを^シ信^{シン}じ^ルは^ハ是^レ

ありしを漸^{シユン}潤^{ジュン}之^ノ矣^ヤ昔^{シヤク}は^ハ古^コ長^{チヤウ}政^{セイ}神^{シン}と^シる^ルを^シ
 是^レ亦^{ヤク}之^ノ矣^ヤなり^シ水^{スイ}際^{サイ}乃^ノ巨^{キョ}細^コハ^ハ依^イ荒^{カウ}と^シり^シ舊^{キウ}記^キ
 之^ノ由^ユ傳^{デン}史^シ記^キより^シ其^ノ數^{スウ}每^{ヘイ}一^{イチ}老^{ラウ}服^{フク}を^シて^シ權^{ケン}を^シ
 半^{ハン}數^{スウ}なり^シ古^コ記^キ數^{スウ}亡^{トウ}乃^ノ款^{クワン}之^ノは^ハ尚^{シヤウ}社^{シャ}に^シ不^フ限^{ゲン}申^{シン}
 介^{ケイ}れ^レ也^ヤ其^ノ人^{ジン}と^シる^ル事^ジを^シて^シ於^オ案^{アン}多^タ二^ニ品^{ヒン}前^{ゼン}亞^ア
 相^{シヤウ}源^{ゲン}敬^{ケイ}公^{コウ}より^シ系^{ケイ}料^{リョウ}回^{クワイ}増^{ゾウ}加^カせ^シ事^ジを^シ當^{トウ}て^シ古^コ神^{シン}は^ハ
 西^{セイ}川^{ケン}木^{ボク}原^{ゲン}池^チ等^{トウ}は^ハ御^ミ結^{ケツ}坐^サ心^{シン}茶^{チャ}乃^ノ御^ミ厨^{チュ}川^{ケン}
 并^{ヘイ}に^シ池^チの^ノ中^{チュウ}に^シ信^{シン}長^{チヤウ}信^{シン}雄^{ユウ}信^{シン}太^{タイ}三^{サン}品^{ヒン}朱^{シュ}章^{チヤウ}墨^{ボク}章^{チヤウ}を^シ
 之^ノ人^{ジン}納^{ノウ}之^ノ今^{イマ}に^シ存^{ゾン}せ^シり^シ御^ミ厨^{チュ}の^ノ中^{チュウ}に^シ存^{ゾン}せ^シり^シ
 又^{マタ}河^カ原^{ゲン}郷^{キョウ}池^チ廢^{ハイ}酒^コ一^{イチ}斗^ト神^{シン}用^{ヨウ}區^ク合^{カウ}致^シ以^イ故^コ車^{クルマ}瓦^{イハ}

去民相強て蒙個裁理之為六月糸料一事を
 於一事を三年運強神主并滿社由必裁を蒙り
 兩郡合体して強よ地定為十町候別又七律兼
 稱法贊之掛附直會之鯉料毎兼個をせり
 是元和年中よりとの神個となれと彼由厨川の
 天主川并又西川を又強り也故又西川の細者
 秋兩交此縣糸直云の裡兩三尾を貞せり此池
 ハ廢し此川を結なり也て此六月大糸は要街
 雜用而已よ河より多年の積功よりこれ此
 民の強堪子取よ此と近里同歸此人とて不

幼りて此^ル知^ル奇也哉

○他邦他郡調進考

- 一 大船三艘 自名古屋
- 一 同壹艘 自鳴海
- 一 同壹艘 自南野
- 一 同貳艘 自勢田
- 一 同貳艘 自今村
- 一 同四艘 自解江
- 一 同壹艘 自戸田
- 一 同貳艘 自佐屋

七巻三ノ七

三ノ一

一同四艘

於津島

惣計二十艘車系各表式艘山車亦相同
焉其動佗邦を境也

○齋竹 式拾竿乞ハ月晦ナリ又邑ノ所ハ疆
毎又町北兩色ノ樹之ハ懸清封毎町林不潔
系勸之神氏系糸ノ兒每町每家潔齋此謂
也乞友ノ若ク人服操或ハ月經婦人又ノ惡疾
乞兒已下ノ廢人ハ不潔ニ齋竹中執例令往來
至竹若越ハ寸篠付大竹又曳連竹也毎町兩
色ノ樹之堆る使を近務審性是人おらる

警部殿西崎の齋竹其真志心之調を承るハ

一 齋竹拾竿ハ

自淡島島山

一 松檜八拾竿ハ

自同列同西

一 齋竹拾竿ハ

自波阜長良

一 柳竹竹百七拾竿ハ

自西川端

一 同式拾竿ハ

自山形田

一 同百拾竿ハ

自桑平

一 同七拾竿ハ

自御子村

一 同七拾竿ハ

自大地心

一 山結竹或拾束

自西川端

拾束

一 同又米ハ

自山新田

一 同十五米ハ

自系平

一 同又米ハ

自測之

一 同又米ハ

自天北心

惣計齋竹式拾竿八拾竿挑灯竹百
竿山挑竹五十米也挑灯竹已下(自吉大和竹
也)後拾自光祿十有一年大和竹東海海竹
乞天和竹近家梯也也今按挑灯竹較如步之
梯ありと之と色世と之とを較ありては較乃限
あり以之凡法別梯系系沙挑調之之動使境

者嗚呼是神光而及又大必考饒心是可知
を等皆有式日有可促之有不進滞齋竹
の死之と之と十箇而各毎町乃境又はは過
一兩多一樹之又邑の東西如也云爾漏之地近
里よれはは沙汰の別由あり略之

○系務雜考

○子界始 自朝儀事 邑山車車系等の他本成と
臺ちよ平素置江川臨及よる風ぬみ隠朽
遺甚速なり是以殘加候補得又邑各
月朔日ハ氏場今市場二日ハ塘下系座下撫三邑

也 網之也 名 皆 於 寺 流 故 寺 亦 謂 之 車 也
也 亦 謂 之 邑 車 座 於 於 西 後 寺 今 市 場 於
蓮 臺 寺 下 據 於 湯 泉 寺 或 云 泉 寺 塘 下 於 千 體
寺 亦 座 於 正 後 寺 是 故 一 車 於 故 物 雜 具 亦 所
新 衛 名 院 也 故 因 院 院 湯 泉 寺 一 之 養 上 假 西 也
手 抄 一 奇 異 乃 昔 後 抄 一 一 體 寺 一 上 世 車
乃 行 抄 抄 一 志 子 界 乃 佳 也 也 け 類 每 寺 每 寺
豐 寺

○ 綱 步 毛 十 二 日 の 末 曠 一 又 獲 の 山 車 の 紐 本 方
三 四 又 同 方 一 一 一 綱 也 亦 之 一 格 日

八 日 也 後 湯 村 綱 步 又 條 也 大 綱 也 於 西 後 寺 流 臺
九 日 八 塘 下 村 綱 又 條 之 内 一 條 先 於 湯 泉 寺 餘
口 條 也 熱 綱 步 乃 日 一 也 一 條 於 上 切 町 一 條 於
塘 下 一 條 於 坂 口 町 一 條 於 上 河 原 十 日 也 稱
熱 綱 步 則 今 市 場 綱 步 又 條 八 於 湯 泉 寺 同 日 下 據 村
乃 綱 又 條 也 於 湯 泉 寺 湯 泉 寺 湯 泉 寺 湯 泉 寺
所 又 同 日 也 小 綱 步 又 條 而 一 也 一 條 綱 之 是 則 謂
加 良 美 綱 步 予 按 又 在 綱 八 條 教 寺 之 平 寺 長 十 三
年 勅 例 云 古 綱 二 條 自 今 年 天 綱 又 條 云 天 文
九 年 條 云 宇 綱 一 本 八 把 云 又 勅 例 條 初 文 云 一

年中祈事の如きよりして神臣等とて隣
ふに起りて進む時宜と云ふ事惟神意之可也
必せり

○系料寄附考

○凡南社其系礼ハ中邦五雙の大嘗たり階級大小社
社乃系典ハ主祀事微少て總世必も華義莊親
よむる乞常規之徒曰系考年不修危業亦不
減治然又時時時宜と云ふ事通例之乞故り
系料要綱亦不衡不更文獻社古と考らるよ
念一專又勅八十六代四條院仁治年間社之文

章生紀範云之解如列六月系田儀寄
教所ハ是也氏人等令勅之乎又考古我
亦尚一乞故大小社乃社田社用皆減中
至亦不尠當系料亦微少事右傳如
混一全盛う及至信云信雄考在云
重月信日况及于御當家別泰平日已高矣
主玉恩可致思効劬情云弘治曰子其及上總
敵信長於天王橋上覽系云按云政社之解
狀考信考考公覽系之及雅因而社御厚
時余日以高及後伏見附一百万石六月大系

遷^ニ遷^ル以^テ遷^ルと云^ハれどと世^ニ世^ニ神^ノ神^ノ結^ス坐^ス之^ヲ根^ノ深^ク源^ノ源^ノ
 選^ト神^ト故^ト以^テ以^テ新^ク陳^セ之^ルは甚^ク感^ス感^ス也^{ナリ}其^ノ仁^ヲ宜^ク也^{ナリ}亦^チ一^ニ云^ハり
 て感^ス感^ス一^ニ云^ハり事^ト又^チ按^テ勅^ノ例^ノ情^ト天^ノ正^ノ又^チ年^ノ同^ク十^ニ
 五^ニ年^ノ同^ク十^ニ六^ニ年^ノ第^ニ下^ニ卿^ノ守^ノ忠^ノ存^ト之^ル數^ト覽^ス案^ス之^ル
 故^ニ循^ル例^トと云^ハぬ自^ラ忠^ヲ存^ス云^ハぬ料^ト寄^テ附^ク之^ル受^ク之^ル
 又^チ年^ノ也^{ナリ}河^ノ原^ノ田^ノ十^ノ町^ノ乃^チ事^トノ第^ニ後^ノの^ニ一^ニ云^ハり元^ノ和^ノ又^チ年^ノ
 以^テ來^ニ也^{ナリ}予^レ按^テ勅^ノ例^ノ情^ト古^ク又^チ是^ノ在^ル之^ル今^ノ終^ル物^ト
 并^ニ湯^ノ車^ノ之^ル天^ノ文^ノ九^ノ年^ノ勅^ノ文^ノ云^ハり沙^ノ車^ノ之^ル古^ク情^ト也^{ナリ}
 孫^ノ之^ル之^ル云^ハり由^テ是^ノ之^ル每^ニ色^ノ自^ラ之^ル之^ル情^ト也^{ナリ}

之爾

○沙編勅例情年表考

○據^テ按^テ之^ル吾^レ尊^ノ神^ノ也^{ナリ}結^ス坐^ス之^ル欽^ノ明^ノ帝^ノ元^ノ年^ノ也^{ナリ}帝^ノ以^テ錄^ス
 六^ノ十^ノ七^ノ年^ノ前^ノ一^ノ子^ノ一^ノ百^ノ七^ノ十^ノ五^ノ一^ノ年^ノ又^チ一^ノ百^ノ七^ノ十^ノ五^ノ一^ノ年^ノ當^テ
 系^ト兄^ト始^ト亦^チ同^ク爾^ノ勅^ノ例^ノ情^ト建^ス事^ト於^テ百^ノ又^チ代^ノ後^ノ相^ト
 系^ト院^ノ之^ル永^ノ二^ノ年^ノ別^ノ脫^ス結^ス坐^ス以^テ降^ル九^ノ百^ノ八^ノ十^ノ三^ノ年^ノ之^ル系^ト
 實^ト僅^ク見^ル大^ノ永^ノ以^テ第^ニ一^ノ百^ノ八^ノ十^ノ七^ノ年^ノ之^ル系^ト例^ト之^ル亦^チ
 考^ス之^ル亨^ノ祿^ノ元^ノ二^ノ三^ノ年^ノ元^ノ和^ノ七^ノ八^ノ九^ノ年^ノ寬^ノ永^ノ自^ラ初^メ十^ニ
 六^ノ年^ノ之^ル事^ト以^テ曆^ノ元^ノ三^ノ年^ノ都^ノ元^ノ三^ノ年^ノ之^ル事^ト又^チ元^ノ三^ノ年^ノ
 考^ス水^ノ滄^ノ乃^チ乃^チ系^ト始^ト又^チ乃^チ系^ト料^ト寄^テ附^ク之^ル要^ト之^ル也^{ナリ}

たり可謂^レ取^ル心^ヲ冠^スと氏人等の大孝の事^ヲ稱^スし
揚^ルじや僕^ノ衰^ニ歎^キ耳^ヲ順^ニ餘^ヲし遭^フ國^ノ志^ヲ終^ス
榮^ニ之^ヲ國^ノ安^ニ民^ノ之^ヲ列^ニ生^ニ涯^ノの中^ニ懷^キ之^ヲ于^テ茲^ニ故^ニ卒^ニ素^ニ
院^ノ源^ノ順^ノ之^ヲ祝^ス頌^ス曰^ク到^ルれはは同^ニ言^フとせられ
たふ子^ノ代^ニ月^ノ也^トと万^ノ福^{々々}護^テ誌

正徳二年^{壬辰}三月吉日

永田調兵衛

京御幸町御池南
書林夢屋孫兵衛

尾列陣馬天王多紀^終

木村六右衛門



愛 知 県



1105566526